

胆石症の症状・診断・治療

1. 胆石症について

全く症状のない胆石もありますが、胆石が動いて胆汁の流れが悪くなるといろいろな症状がでてきます。

食事のあと（特に脂肪分の多い食事をしたあと）に、吐き気・胃部の不快感・胃痛・右あばら骨の下の痛み・右背中への痛みなどが出現してきます。食事以外で、肉体的・精神的過労も誘因となります。

総胆管に胆石がある場合には、黄疸・肝機能障害を伴ってきます。

さらに感染が加わると熱がでてきます。

胆石の病状の程度を知るために、血液検査・超音波検査・CT・胆嚢X線検査（DIC-CT）・核磁気共鳴画像検査（MRI / MRCP）・内視鏡的膵胆管造影（ERCP）を行います。

<緊急の手術が必要な場合>

発熱・黄疸・胃痛または右のあばら骨の下付近に強い痛みがみられたときには、化膿性胆管炎または重症の急性胆嚢炎を起こしている可能性が高く、放置すると敗血症・腹膜炎の状態に陥るので、急いで治療・手術をする必要があります。

急性胆嚢炎の手術は、症状が出てから手術までの時間が短ければ短いほど安全性が高いといわれています。発症後、72時間以内の手術が理想的であり、遅くとも1週間以内が望ましいと考えられています。

ただし、ほかの病気のために血液をサラサラにする薬（抗凝固薬・抗血小板薬など）を飲んでいる方は、手術前に一定期間この薬を中止することが必要であり、発症早期の手術ができない場合があります。頭痛・生理痛の際、内服されることの多い「バファリン」も血液をサラサラにする作用がありますので、手術前はしばらく内服を控えることが必要です。

<時期をみて手術を受けるのが望ましい場合>

1. 胃部の不快感・吐き気・胃痛等の症状を繰り返す
2. 胆石が多数あり、胆嚢の壁の状態がよくわからない
3. 経過観察中に、胆嚢の壁に変化がみられる
4. 胆石以外の病気のために血液をサラサラにする薬（抗凝固薬・抗血小板薬など）を飲み続けている
5. 膵炎を起こしたことがある

<経過観察をする場合>

全く無症状であり、超音波検査やCTで胆嚢壁に変化がなく、肝機能検査に異常がない場合は、定期的な検査を続ければ充分です。ただし、高齢になるにつれて胆嚢癌を発症するリスクも高まることに注意が必要です。

2. 手術以外の治療法

手術以外の治療法として、次の二つが挙げられます。

- ①経口剤による胆石溶解療法
- ②体外衝撃波による胆石破碎療法

これらの治療法は以前に行われたことがありますが、再発率が高いため現在主流ではありません。

3. 手術的治療(胆嚢摘出術)

胆石とともに病気の胆嚢を切除する治療法であり、確実に胆石症を治すことができます。胆嚢の働きは肝臓で作られた胆汁を一時的に貯蔵するだけなので、胆嚢を切除しても特に問題は起こりません。

胆石の手術的治療には、次の二つの方法があります。

a) 開腹による胆嚢摘出術 (従来からの手術方法)

へその上または右肋骨の下を 10-15 cm 切開して開腹し、胆嚢と胆石を一緒に切除する方法です。

b) 腹腔鏡下胆嚢摘出術 (内視鏡を用いた手術方法)

1990 年後半から日本で行われるようになりました。当院では 1991 年 6 月から導入しており、2016 年 12 月末で累積手術例数が 1700 例を超えています。臍のほか 3 箇所、腹壁に小さい穴を開け、腹腔鏡でみながら胆嚢を切除する方法であり、次のような利点があります。

1. 傷あとが目立たない
2. 手術後の痛みが少ない
3. 翌日から食事がとれ、歩くことができる
4. 手術のあと 3 日で退院できる
5. 手術のあと 10 日から 2 週間で全く普通の生活にもどることができる
6. 術後の腸癒着症が少ない

<手術方法の変更について>

安全を第一に考えていますので、腹腔鏡下胆嚢摘出術の途中、次のような場合には、開腹術に変更することがあります。

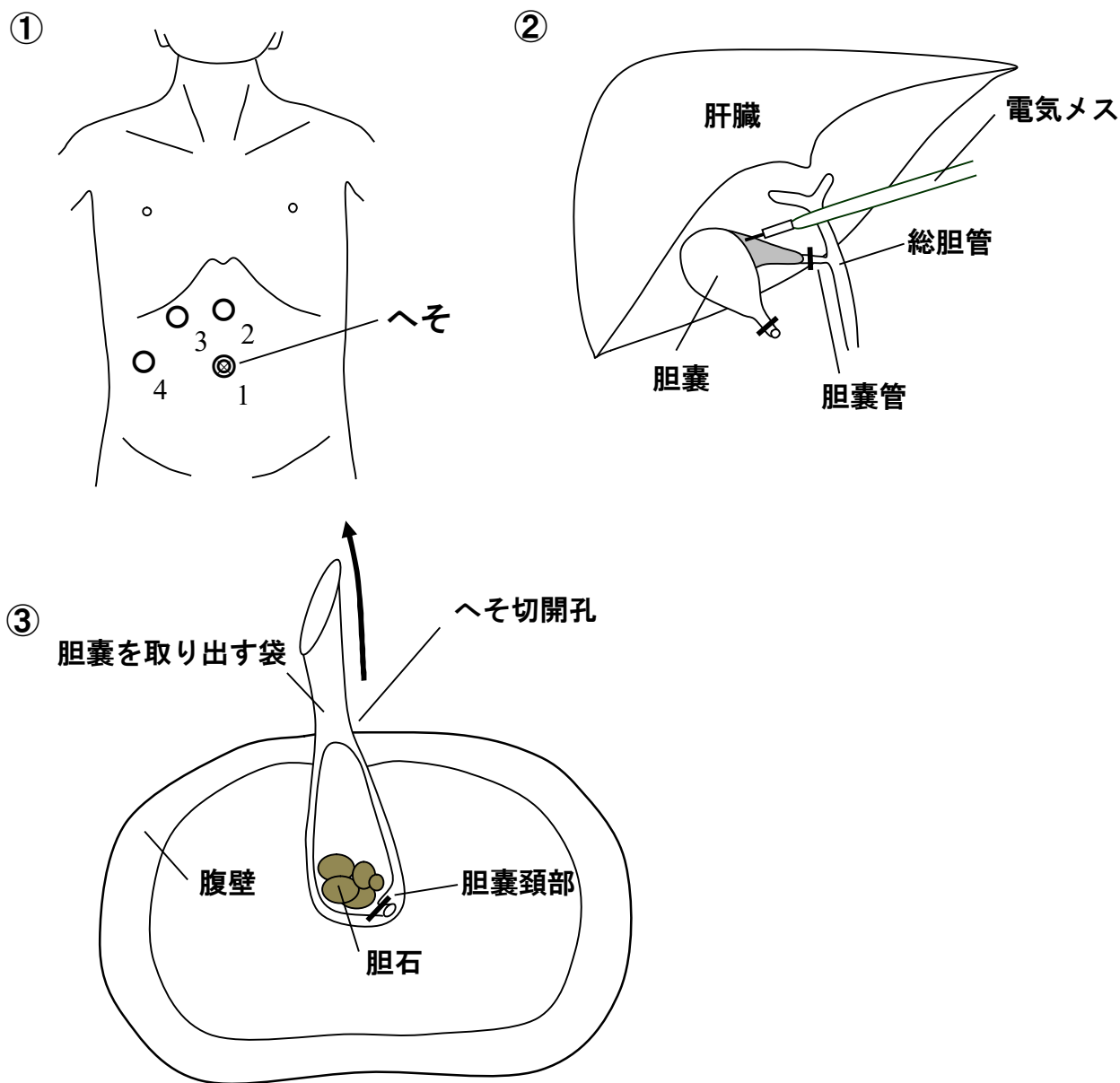
1. 胆嚢の炎症・癒着が強い
2. 胆管(胆汁の流れる道)の走行に異常がある
3. その他、大出血を認めるなど、安全な手術ができない

なお、過去の腹部手術歴のうち、婦人科手術・虫垂切除の場合は、殆ど支障をきたしません。また、胃手術後の場合、上腹部に癒着を認めるため時間がかかりますが、多くは腹腔鏡下胆嚢摘出術が可能です。

腹腔鏡下胆嚢摘出術

開腹しない画期的な胆嚢摘出術

- ① 1～4の部位に穴をあける（◎は10mm、○は5mm）
- ② 術中胆道造影後に胆嚢管を切断し、電気メスで胆嚢を切り取る
- ③ 胆嚢を専用の袋に入れて、へその穴（1）から摘出する



腹腔鏡下胆嚢摘出術の特長

1. 手術の傷が小さいので術後の痛みが少なく、翌日からの歩行・食事が可能です。
2. 従来の開腹術より早期に退院ができます。
3. 傷が小さいため、美容上の利点もあります。

平塚胃腸病院